

# 課題名：交信かく乱防除技術の広域導入等による ヒメボクトウ被害の根絶に向けた取り組み

## ねらい

ナシの主力品種「幸水」「豊水」の老木化による樹勢の低下、夏秋季の高温干ばつ、冬期の温暖化などの気象要因、更に萎縮病やヒメボクトウなどの枝幹病害虫による被害などにより、ナシの生産量は減少しています。

枝幹害虫「ヒメボクトウ」については、大学、研究機関とともに平成23～25年度の3カ年間「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で「複合的交信かく乱防除技術」を現地実証し、平成26年3月には、交信かく乱剤(ボクトウコンH)が農薬登録されました。

これらのことから、本剤を活用した技術に加えて、被害枝の伐採と天敵線虫剤(バイオセーフ)による防除を併用したIPM(総合的病害虫管理)実践の取り組み支援するため、補助事業を活用し地域からヒメボクトウの被害を根絶する活動の基盤を構築を図ります。

## 活動地域・対象

地域：鳴門市、松茂町、北島町、藍住町、板野町  
対象：ナシ栽培農家（JA板野郡、JA大津松茂、JA徳島北）

## 普及活動の目標

- 1 交信かく乱防除技術の広域実証ほ 50ha
- 2 薬剤防除(バイオセーフ・フェニックスフロアブル)の実施農家数 40戸
- 3 縮伐、伐採の実施農家数 40戸

## 目標に向けた活動概要

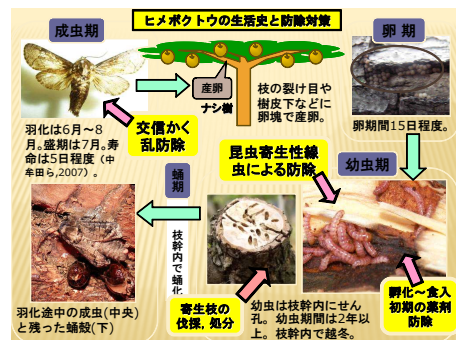
- 1 地域の生産組合等が主体となって、交信かく乱防除技術の広域実証を行いました。
- 2 講習会、勉強会等によりIPM技術の実践を推進しました。
- 3 実践ほ場における発生調査や農家へのアンケート等を実施しました。



交信かく乱剤の設置



講習会におけるIPM技術の推進

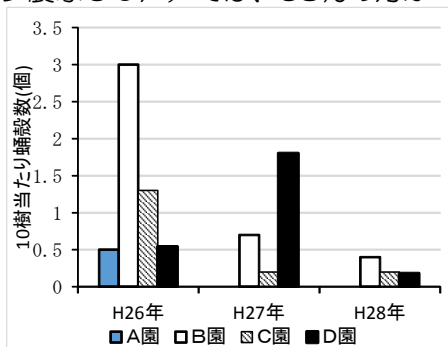


総合的な防除を実施するための啓発資料

## 普及活動の成果

- 1 地域JAの7生産組合等が交信かく乱防除技術に取り組み、102戸の農家、56.6ha（達成度113%）で実践ほ場が設置されました（H27年度）。
- 2 併せて、共同防除体制でのバイオセーフによる防除に42戸（達成度102%）、縮伐、伐採に42戸（達成度102%）の農家を取り組みました（H27年度）。
- 3 実践ほ場でのヒメボクトウの密度は低下しており、本地域の被害は減少していると推察されました（H28年度）。
- 4 農家アンケート（ナシ農家50戸）では、58%の方が

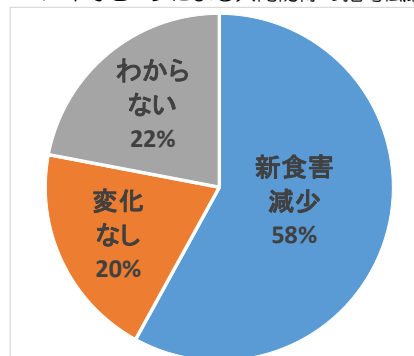
「ヒメボクトウの新食害が減少した。」との回答がありました。



実践ほ場におけるヒメボクトウ発生密度



バイオセーフによる共同防除の指導風景



被害の状況に関するアンケート結果(50戸)

## 用語説明

- 交信かく乱技術：交信かく乱剤（昆虫の交尾行動を誘起する性フェロモンと呼ばれる化学物質を利用した薬剤）により交尾を阻害し防除する技術です。交信かく乱剤から高濃度の合成性フェロモンが園内に放出されることにより、雄成虫は雌成虫が配偶行動のために出している性フェロモンを認識しづらくなり、同じ種の雌成虫を発見することを妨害して、雌成虫の交尾の機会が減り、子孫の数を減らす効果があります。
- 天敵線虫剤：害虫に感染し、殺してしまう線虫を成分とする生物農薬。ヒメボクトウに対しては天敵線虫（スタイナーネマ・カーポカプサエ）剤を水に希釈し、寄生枝に処理して防除します。

## 今後の発展方向

ヒメボクトウの交信かく乱技術等の総合防除の広域的取り組みについては、補助事業を活用して推進しており、平成29年度以降の継続実施についても関係機関と調整しています。

## 関係者からの声

- 新食害が減少した。
- 折角始めた交信かく乱技術の広域的な取り組みなので、事業も3年間は継続できるようにお願いしたい（広域実証への参加農家）。

## 高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922